

勝運寺

勝運寺は竹原の港町・忠海の小さな丘の脇にあります。この寺院は、もともと 1570 年から 1581 年にかけて、浦宗勝（1526–1592）によって建てられました。石垣などの城のような要塞と、攻撃者を遅らせ、防御者が攻撃できるように設計されたジグザグのレイアウトが特徴です。

浦宗勝は、小早川家の海軍司令官であり、かつて勝運寺のある丘のふもとに城（賀儀城）がありました。この寺院は、瀬戸内海からの潜在的な攻撃に対する城の防御の一部として機能しました。

本堂（本堂）は 1955 年に改修されました。寺院には 3 つの重要な宝物があります。正装と武士の鎧を着た宗勝の絵が描かれた掛軸、宗勝が使用した弾薬ケース、寺院の初代僧侶を運ぶために使用された馬車です。瀬戸内海を見下ろすお墓の寺院に、宗勝の髪の毛の一部が保管されています。

寺院は毎週日曜日の早朝に訪問者に座禅体験の機会も提供しています。